

平成31年度 防衛大学校入校式
防衛大学校長式辞

本日、ここに平成31年度防衛大学校入校式が無事に挙行されました。本年度は、本科第67期516名、大学院にあたる理工学研究科前期（修士）課程55名、同後期（博士）課程8名、および総合安全保障研究科前期（修士）課程14名、の学生諸君を迎えることができました。

本年も、本校はアジア諸国から数多くの優秀な留学生諸君をお迎えしました。本日、本科に入校するのは、第2学年に編入する大韓民国留学生3名のほか、タイ、フィリピン、インドネシア、ベトナム、モンゴル、カンボジア、東ティモール、ラオスからの留学生計22名、および理工学・総合安全保障研究科前期課程7名、後期課程2名の諸君です。本科の留学生諸君は故国を離れて、すでに一年間の日本語研修で防大生活を体験してきました。諸君たちは寂しく感じることも多かったと思いますが、日本を第二の故国と思い、日本人学生と切磋琢磨しつつ、卒業まで頑張っていたいただきたいと思います。

すべての新入生諸君に対して、本校を代表して、心よりお祝いと歓迎の意を表します。新入生諸君、入校おめでとう！

本日の入校式に当たり、原田憲治副大臣をはじめ多数のご来賓、そして全国から数多くのご家族・ご親族のご臨席を賜りました。ご参列の皆様方に対しまして、本校を代表して、厚くお礼を申し上げます。

本日の入校式はホームカミングデー2(ツー)の日でもございます。ちょうど今から60年前、昭和34年（1959年）に防衛大学校に入校された第7期の先輩方、年齢にして80歳前後の卒業生の皆さんが新入生諸君を激励するために多数ご参列されています。米ソ冷戦の真只中の時代で、自衛隊に対する社会の側の認知も低かった中で、皆さんは防大を卒業後、国民の安全で平和な生活を守るべく、黙々と任務を完遂されました。

ご参列の皆さま、戦後日本の防人として、我が国の独立と平和と安全に大きな役割を果たされた第7期の大先輩たちの晴れやかな凱旋に対して、盛大な賛辞と拍手をお願いいたします。お帰りなさい。ありがとうございました！

本日は、ご家族を合わせて180名近い方々が、ご参列頂いております。

さて本日の入校式に際して、冒頭に、日本の高度成長を支えた昭和世代の中で、一世を風靡したアメリカの市井の詩人サムエル・ウルマンが謳い上げた青春賛歌の詩の一節をご紹介します。

「青春とは人生のある期間ではなく、心の持ちかたを言う。・・・・・・・・

青春とは臆病さを退ける勇気、安きにつく気持ちを振り捨てる冒険心を意味し、ときには、二十歳の青年よりも六十歳の人に青春がある。年を重ねただけで人は老いない。理想を失うとき初めて老いる」。

ウルマンは、青春は心の持ち方であると言い、臆病さと安易な気持ちに負けない勇気と冒険心を持つことこそ青春だと語っています。ここに集った新入生の皆さんは、ごく普通の大学生活ではなく、大いなる勇気と冒険心をもってここ防衛大学校に進学し、国家や国民に奉仕するという大きな目的に従事することを決意されました。私は、諸君たちのこの決断が、まさにウルマンの言う青春の見事な体現であると確信し、敬意を表したいと思います。

私は防大に着任して今年で8年目、一般大学での私自身の長い経験に照らしても、防大は日本一の大学であると自負しています。学問と知性への情熱、怠ることなき体力錬成、自主自律の精神を前提に自由と規律の均衡点を追求する集団生活等々、すべては一人一人の学生の個性を尊重しつつも規律を重視し、各人の人格を陶冶するためであります。

しかし、現在私たちが掲げる防大の真の目標は、さらにその上の「世界一の士官学校」であります。日本で唯一無二の存在である防大の比較基準は世界に置かなければなりません。先般の卒業式でも述べましたが、防大ではこれまで「新たな高みプロジェクト」に取り組んできましたが、それがほぼ実現を見つめる現在では、その一歩上を目指す「さらなる高みプロジェクト」を構想中であります。諸君たちはこのプロジェクトを創造し担う主体的な一員としてあることを自覚してほしいと思います

先週土曜日の3月30日、防大第1期生と第2期生が80人ほど久里浜の地に参集し、本校の前身である保安大学校の仮校舎の跡地に記念碑を建立いたしました。これは長年の希望であり、ようやく実現いたしました。85歳前後の先輩たちが往時を懐かしみ、語り合い、涙しあう姿に接し、改めて防衛大学校の建学の精神に立ち返ることの意義を感じた次第であります。

昭和28年(1953年)4月の第1期生の入校式に際して、榎智雄初代学校長は新入生に対して、次の二つの任務を熱く語っています。

一つは「偏することなき均衡のとれた人物」を目指すこと、つまり知性と品性をバランスよく涵養させることであります。幹部自衛官に求められる能力は、危機の瞬間における判断力と決断力であります。そうした能力を身に着けるには、知性と品性の両輪をバランスよく磨く以外にありません。もちろんそれに加えて、その前提としてたくましく健康な身体が不可欠であります。

もう一つは「民主制度に対して的確な理解」を持つことであります。言うまでもなく、自衛隊の使命は民主主義のもとで国民に奉仕し、国家の独立・平和・安全を守り抜くことにあります。さらに榎学校長は個性の尊重にも言及し、その意義を説きつつも、「個人の自由は放縦ではなく」、「正しきことを目指すことにおいてのみ個性の発展があり、正しき行いにおいてのみ自由があるのであります」と語っています。諸君はこの言葉の重みを忘れないでください。

防衛大学校の前身である保安大学校に第1期生が入校してから66年、防衛大学校は昭和と平成の時代を積み重ね、今年も新たな時代の先駆けとして67期の新入生諸君を、桜咲き誇るこの小原台に迎えることができました。

新入生諸君の入校を心から歓迎します。おめでとう！
お互いに頑張りましょう！

平成31年4月5日
防衛大学校長 國分 良成